

京都会館の壁画について

平成24年3月26日

前川建築設計事務所 橋本 功

京都会館1階第2ホールホワイエに陶板浮彫りの壁画がある。

この壁画について「第4回京都会館の建物価値継承に係る検討委員会」において、「どのような経緯で設置されたのか」知見を求める論議があり、橋本が当時の前川事務所関係者に確認することとなった。

橋本が確認した関係者は、前川建築設計事務所の前所長の田中清雄であり、当時京都会館の設計監理に関与していた。確認した話は以下のとおり。

- ・ル・コルビュジエ（前川の師）がホールの緞帳をデザインしていること知っていた前川は、京都会館の第2ホールの緞帳デザインを芸術家に委託したいと考えていた。
- ・スタッフの田中清雄は、富山県で同級だった画家の近藤茂を前川に紹介。
- ・近藤の作成した原画を前川は気に入って採用し、第2ホールの緞帳が完成。
- ・躯体が出来上がった頃、現場を見た前川は第2ホールホワイエの壁に壁画が欲しいと考え、近藤茂に壁画の原画を依頼する。
- ・壁画は画家と彫刻家の共同作業となるため、近藤は友人の彫刻家とともに共同制作を行う。
- ・友人の彫刻家（名前は不明）は、当時田園調布にアトリエを開いていた同郷の猪熊弦一郎が、近藤とともに下宿の世話をしてくれていた仲間であった。
- ・壁画は常滑で製作した陶板製で、色合いは近藤と田中清雄が決定し、壁画のバックの深緑色は京都会館設計監理チーフの田中誠のアドバイスによる。
- ・壁画の出来栄を前川は非常に気に入っていた。

追記

- ・京都で開かれた国際デザイン会議に来日し、京都会館を「なまのまの純粋な美しさ」と評したフランスの女流建築・美術評論家フランソワーズ・ジョオエは、壁画について以下のように語っている。

「私は、この建物の中心にあたかも華麗なトランペットの響きのように鳴り渡り、この建物の厳しさを柔らげ、明るくしている陶板浮彫りに大変感服したことをつけ加えておきたい。」